

鉄芽球性貧血に自己免疫性溶血性貧血を合併した 1 症例

◎榊谷 亮太¹⁾、池本 敏行¹⁾、棚田 浩子¹⁾、田中 秀磨¹⁾、岡田仁克¹⁾
大阪医科大学附属病院¹⁾

【はじめに】

自己免疫性溶血性貧血(AIHA)は、何らかの原因により自己赤血球膜上の抗原に対して自己抗体が産生された結果、赤血球寿命が著しく短縮して貧血をきたす病態である。また、鉄芽球性貧血(RARS)は骨髓異形成症候群(MDS)の一病型で貧血と、赤芽球の 15%以上に環状鉄芽球を認める病態である。今回我々は RARS に AIHA を合併したと考えられる症例を経験したので報告する。

【症例】

71 歳、女性、原因不明の貧血が続くことから平成 26 年 8 月に精査目的で入院となった。腎性貧血が疑われ、エリスロポエチン製剤を投与されたが貧血は改善しなかった。

【現病歴】

薬剤性好酸球增多症、慢性腎不全

【所見】Hb5.8g/dL, T-Bill4.2mg/dL, LD415U/L, 血清鉄 157μg/dL, 血清フェリチン 3999.0ng/mL, 網状赤血球 19.4%, 血清ハプトグロビン 1.0mg/dL 以下, 末梢血に球状赤血球と大型の赤血球が混在しており赤血球分布は二相性

だった。直接・間接クームス試験はともに陽性で AIHA が疑われた。なお、赤血球抗体に型特異性は認められなかった。さらに、末梢血の赤血球にパッペンハイマー小体を多数認めたことから RARS の可能性が疑われ骨髓穿刺を施行された。骨髓液では赤芽球の約 60%に環状鉄芽球が認められた。骨髓生検の病理検査では造血細胞の三系統に異常が認められ、MDS-RARS と診断された。染色体検査は正常核型で、異常は認められなかった。

【まとめ】

続発性 AIHA の基礎疾患として膠原病などの自己免疫疾患やリンパ増殖性疾患、ウイルス感染や卵巣嚢腫などが知られているが、本邦における MDS との合併症例は少ない。本症例は RARS に AIHA が合併したと考えられた珍しい症例だった。